

コースコード：RH-DO380

税込価格：277,200円 (税抜価格：252,000円)

日数：4日間

ここに注目!!

受講対象者

このトレーニングはこのような方におすすめです。

主な対象者：プラットフォームエンジニア、システム管理者、クラウド管理者、およびその他のインフラストラクチャ関連 IT の職務を担う方で、アプリケーション向けインフラストラクチャの実装と管理を担当する方

その他の対象者：エンタープライズアーキテクト、サイト信頼性エンジニア (SRE)、DevOps エンジニア、およびその他のアプリケーション関連 IT の職務を担う方で、アプリケーション向けインフラストラクチャの設計を担当する方

前提条件/前提知識

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

Red Hat OpenShift Administration II: Operating a Production Kubernetes Cluster (DO280) を受講済みで、Red Hat 認定スペシャリスト - OpenShift Administration - を取得している Red Hat システム管理 (RH134) を受講済みで、Red Hat 認定システム管理者となっている Red Hat 認証システムエンジニアまたは Red Hat 認定スペシャリスト - Ansible Automation - としての経験が推奨されますが、必須ではありません。Ansible Playbook の作成と実行に関する基本的な知識が必要です。

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

このコースは、コンテナ導入に向けての準備および拡張段階にある IT 運用チームをサポートします。このカリキュラムにより、企業はイノベーションを迅速化させ、顧客の要求に基づいて拡張し、クラウドネイティブおよびクラウド対応のアプリケーションをホストする複数の OpenShift クラスタを積極的に管理できるようになります。

このコースは、OpenShift 4.x クラスタの設定と管理に必要な基本的なスキルに基づいており、本番環境を大規模に運用するために必要な以下のようなスキルが学べます。

より高いパフォーマンスと可用性を備えた本番クラスタを確立するため、Day 2 タスクを自動化させる

OpenShift をエンタープライズ認証、ストレージ、CI/CD、GitOps システムと統合して、IT 運用の生産性と組織標準への準拠を向上させる

クラスタの Operator と計算能力に関する問題を特定するためのトラブルシューティング手法

アウトライン



K認証とID管理

LDAP および OIDC エンタープライズ ID

システムを使用して認証し、それらのシステムが定義するグループを認識するように OpenShift クラスタを設定する

OADP を使用したアプリケーションのバックアップ、復元、および移行

OpenShift API for Data Protection (OADP)

を使用してアプリケーションの設定とデータをバックアップおよび復元する

クラスタのパーティショニング

クラスタノードのサブセットを、特定の種類のワークロード専用を設定する

Pod のスケジューリング

一連の専用クラスタノードで動作するようにワークロードを設定し、他のワークロードがそれらのクラスタノードを使用できないようにする

OpenShift GitOps

クラスタとアプリケーションを管理するために OpenShift GitOps をデプロイする

OpenShift Monitoring

アプリケーションとクラスタでのパフォーマンスと可用性の問題をトラブルシューティングする

OpenShift Logging

OpenShift ロギングをデプロイし、ワークロードおよびクラスタノードからログエントリに対してクエリを実行する

注：学習内容は、テクノロジーの進歩や対象業務の性質の変化に伴って変更されることがあります。

【技術要件】

OpenShift クラスタとリモート管理者のワークステーションを提供するクラウドベースのクラスルーム環境にアクセスするため、インターネットアクセスが必要です。